

健康医療部 保健医療室 健康づくり課
 担当者 和田、犬伏、寺岡 内線 2529
kenkodukuri-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp

《拡充》

第2期 健康寿命延伸プロジェクト事業費【知事重点】

～府民の『健康寿命の延伸』と『健康格差の縮小』をめざす～

平成 30 年度当初予算額：9,104 万 3 千円

■目的

「第3次大阪府健康増進計画（平成30(2018)年度～平成35(2023)年度）」に基づき、府民の健康寿命の延伸・健康格差の縮小をめざす。

■内容

- ◇生活習慣病の発症予防に向けて、生涯を通じた継続的な健康づくりの実践を推進
- ◇若い世代から働く世代、高齢者までライフステージに応じ、重点方向に沿った取組みを推進（重点方向）
 - ▶若い世代：『ヘルスリテラシー（*健康情報を活用する力）の習得』
 - ▶働く世代：『けんしん（健診・検診）の受診』
 - ▶高齢者：『フレイル（*高齢になって心身の活力が落ちた状態）の予防』
- ◇市町村や多様な主体（医療保険者、民間企業・団体、大学等）との連携・協働のもと、総合的・効果的な健康づくり施策を推進



■プロジェクトの具体的内容（平成30年度）

若い世代	健康キャンパス・プロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携した学生向けの健康セミナー（食生活・運動・喫煙等）の開催 ・女子学生を対象にした、検診車派遣による子宮頸がん検診の実施や女性の健康セミナーを開催
働く世代	中小企業の健康経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・府内中小企業を対象にした健康経営の取組み支援や、健康経営セミナー、健康づくりアワードを実施
	女性の健活セミナー実施	<ul style="list-style-type: none"> ・働く女性を対象に、女性の健康課題（乳がん等）をテーマにしたセミナーを開催
	子育て女性の禁煙支援	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児歯科健診等の場を活用し、子育て女性の禁煙を支援
	「乳がん検診」受診率向上モデル事業	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設や市町村と連携して検診車を派遣し、気軽に乳がん検診を受診できる機会を創出
高齢者	「健康格差」の解決プログラム促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・府内市町村における健康格差の縮小に向けて、モデル市町村と連携し、分野別（特定健診受診、保健指導、フレイル予防）のプログラムを開発・実証 ※別紙参照
全世代	府民の健康づくり機運醸成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等との連携によるキャンペーンなどを実施し、健康づくりの機運醸成を推進

■「健康格差」の解決プログラム促進事業

府内市町村の健康格差（健康寿命の差）の縮小に向けて、モデル市町村との連携のもと、国保被保険者を対象に「特定健診の受診」、「保健指導の実施」、「フレイル（高齢になって心身の活力が落ちた状態）の予防（運動・栄養改善）」の3分野において、改善プログラムの開発・効果検証を実施。取組みモデルを府内市町村へ拡げていく。

【特定健診の受診】

（課題）

市町村国保の特定健診を受診した人の約3割が翌年度の健診を未受診

【保健指導の実施】

（課題）

市町村国保の特定保健指導は、約2割が途中で中断するなど実施率が低い

【フレイルの予防】

（課題）

高齢期のフレイルの予防に向けて筋力低下が始まる前(働く世代)からの取組みが必要

課題解決に向けた取組みが必要！！

モデル市町村と連携した「健康格差」の解決プログラム促進事業の実施 （3分野におけるプログラムの開発・効果検証を実施）

特定健診受診率向上プログラム

市町村、府医師会、健診機関と連携し、特定健診の未受診者に対し受診を働きかける「継続受診勧奨プログラム」を開発

特定保健指導実施率向上プログラム

市町村、大学等研究機関と連携し、特定保健指導を効果的・効率的に実施するため、「保健指導プログラム」を開発

フレイル予防のための生活習慣改善プログラム

市町村、国立健康・栄養研究所と連携し、働く世代から実践できる効果的な「生活習慣（運動・食生活など）改善プログラム」を開発

“3分野における取組みモデル”を、府内市町村へ展開

特定健診受診率の向上、特定保健指導実施率の向上、生活習慣の改善をめざす！

【参考】

- * 府の健康寿命：男性 70.46 歳（43 位）、女性 72.49 歳（47 位） * 平成 25 年
- * 府内市町村の健康格差（健康寿命の差）：男性 4.6 歳、女性 4.0 歳 * 平成 27 年